

# いなり ⑨稲荷神社

稲荷二丁目

稲荷神社は、富樫家近(家通)が長治元年(1104)に稲荷明神を祀ったのが起源と伝えられており、以下のようなきつねの恩返し伝説が残っています。



900年ほど前、富樫家近は堀河天皇の離宮を造営するため、京都の鳥羽へ向かいました。途中で老夫婦に「わが子が離宮の石垣に閉じ込められたので救って下さい」と頼まれました。家近が離宮の石垣を崩すと、死にそうな白い3匹の子狐がいたので手当をして放しました。

その夜、家近の夢に稲荷大明神が現れて「白狐を助けてくれた恩として末永く富樫家を守る」と告げられました。



3匹のキツネを助ける家近  
(絵 吉岡幸三さん)

その後、富樫家はいつそう栄えたので、お堂を建て稲荷大明神を祀り、毎年かかさず赤まます(小豆ごはん)を供えました。これが今の稲荷神社であるといい、お祝いや祭に赤まますを炊いて祝う行事が広がったそうです。



赤まますをお供えする家近  
(絵 吉岡幸三さん)